

オ ク ラ (露地) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長と生殖生長が同時に進行する型である。窒素をはじめ養分を生育後期まで供給する必要があり、収穫後の土壌には養分が残存しやすい。他作物との組み合わせなどを図り、残存養分の過剰な蓄積を回避する必要がある。

〔病害虫・雑草防除〕

土壌病害虫対策として連作を避け、排水を良好に保つ。過度の密植と過繁茂を避け、適切な整枝を行い風通しを良好にするように努める。育苗期には防虫ネットによる被覆等を行い、害虫の被害を回避する。病害虫の早期発見に努め、適期防除で化学農薬の低減に努める。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点に立った投入量管理を行う。 緑肥作物を利用する。	堆肥 1~2t/10a
化学肥料 低減技術	基肥は局所施肥(条施等)するとともに窒素、カリについては追肥型の施肥法をとることを基本とする。 肥効調節型肥料を利用する。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で慣行施肥量の20%減 有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20~50%
化学農薬 低減技術	BT剤を利用する。 (対象:ハスモンヨトウなど) 微生物農薬を利用する。 (対象:灰色かび病、うどんこ病、ネコブセンチュウ) 対抗植物(クロタリヤ、ギニアグラス等)を利用する。 (対象:ネコブセンチュウ) 光反射マルチを利用する。 (対象:アブラムシ類、ウイルス病、雑草) 生育初期に防虫ネットによる被覆を行う。 (対象:アブラムシ類など) 性フェロモン剤による発生予察、誘殺を行う。 (対象:ハスモンヨトウ) マルチ栽培を行う。 (対象:雑草など)	慣行使用回数の20%減
その他の 留意事項	排水良好で表土の深い肥沃な土壌を好むので、水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保を図るとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止に留意したきめ細かな施肥法をとる必要がある。 溶脱防止、地温上昇のためマルチ栽培とする。 連作障害回避のため、他作物との輪作を行う。	